

戦後（1945～1950） その9

《技術革新を興す多摩川の地域遺伝子》

多摩川流域は、軍需産業も多く、財閥解体などで、産業や経済が衰退するリスクが高い地域でした。しかし企業や技術者は、新しい境地で踏ん張り、朝鮮戦争の特需もあって以前の活気を回復し、さらに技術革新を起こして国際企業になっていきました。

東洋一の飛行機メーカーだった中島飛行機株式会社は、財閥解体で、工場ごとにほぼ分割されてしまいます。しかし、そこで培われた技術は、現在のSUBARUや日産の技術に繋がっていきます。ロケットも研究していましたが、その部門は、現在、IHIエアロスペース社（事業所は群馬県）となって、国産固体ロケットを製造しています。（注）

エレクトロニクス関係では、戦前から多摩川流域に拠点があった東芝、NEC、富士通のほか、戦後にCANONも多摩川流域に進出し、技術革新を興し、それぞれ国際企業に成長していきます。なお戦後に誕生したソニーは、本社が品川区にありますが、多摩川の沿川に拠点はありません。

中でも、CANONは、1947年（昭和22）日本の貿易再開に際し、カメラが最適輸出品に指定されたことから勢いが付き、1951年（昭和26）、大田区下丸子に、本社、工場を集結させました。それから、川崎市に、1964年（昭和39）、玉川事業所、1976年（昭和51）小杉事業所を建設していきます。

そして、日本経団連会長を輩出する企業まで発展し、2007年（平成19）には、川崎駅近くの東芝工場跡地に、川崎事業所（注）を開設し、2016年（平成28）には、ヘルスケア事業の成長に向けて東芝メディカルシステムズ（事業所は栃木県）を完全子会社化しています。

このように、多摩川流域は、エレクトロニクス・メカニクス領域において技術革新を興した地域であり、その地域遺伝子は、将来、次世代のAI領域にも発現し、世界のイノベーションを引き興すことでしょう。

なお、ゼネコンでは、1946年（昭和21）、大倉財閥が解体されて、大倉土木株式会社が、大成建設株式会社と改称して再出発します。「建設」の言葉を

付けた最初のゼネコンです。それは「建設」省設立よりも早い。「建設」が、時代の風潮に合致していたのですね

注：中島飛行機は、朝鮮戦争を契機に、接収された工場も返還され、別々になった企業の再結集に向います。そこで、担当したのが富士重工株式会社（現SUBARU）です。しかし、中島飛行機の武蔵野工場は、これに合流せず、別の道を歩んでいきます。

戦前の飛行機メーカーとして、関東には立川飛行機株式会社がありました。戦後、中島飛行機の武蔵野工場は、富士精密工業株式会社として再出発し、立川飛行機の府中工場は、東京電気自動車株式会社として再出発します。両者が合併して、プリンス自動車株式会社となるのですが、日産と一緒にあって現在に到ります。日産の「スカイライン」は、プリンス自動車が開発した車の名前を踏襲しています。

写真は、①記載した企業の位置図（細見調べ、Yahoo 地図に加筆）、②IHI エアロスペース社が開発している新型ロケットのイプシロンと既存ロケットの比較（H2A の本体ロケットは、液体を燃料とするロケットで三菱重工が製作していますが、H2A の補助ロケットは、固体を燃料とするロケットです。blog「岩清水」に掲載された朝日新聞の情報）



既存 新型 ロケットの比較	ロケット「イプシロン」と		
	M5	イプシロン	H2A (標準型)
	全長 30.7m 重量 139 ^{トン}	24.4m 91 ^{トン}	53m 289 ^{トン}
		改良 改良 	1段目 
開発費	165億円	205億円	1532億円
打ち上げ費用	75億円	38億円	85億～120億円
打ち上げ能力 (低軌道)	1.85 ^{トン}	1.2 ^{トン}	10 ^{トン}